

大阪・梅田の複雑な地下街も「うめちかナビ」でスムーズに目的地に向かうことができる



地下からのメッセージ

近景遠景

④

大阪人でも道を間違える梅田周辺の地下街は「迷路」と評される。国内最大級を誇る約8万平方メートルにはJR、阪急、阪神、大阪市営地下鉄の7駅があり、毎日、乗り換えの通勤客ら200万人以上が行き交う。「車いす利用者にとって最適ルートはどれか」。電動車いすを使う関西学院大非常勤講師の坂上正司さん(46)は、そんな視点で8月に登

雑踏の迷路、車いすもナビ

うめちかナビの案内対象地域



場した地下街の無料案内サイトを「見守っている」。大阪都市工学情報センター(中央区)などが開発したサイト「うめちかナビ」。携帯電話やパソコンで接続し、目的地のルートを検索する場合、「徒歩」と「車いす」の2つのルートを調べるができる。あるディアモール大阪円形駅はもちろん、定番の待ち合わせ場所、コインロッカー、トイレなども登録し、サイトは当初、大阪駅側であり、その数約1500

を「最短」と表示した。ただ、途中で警備員に連絡しなければ乗れないリフトを使わなければならない、ある程度の待ち時間が必要だ。坂上さんは「距離は長くても結果的に移動時間は短くなる」と北新地側を通る「南回り」のルートを提案し、サイトに反映された。再開発が進む大阪駅周辺は2011年春以降、大規模ビルの新築や増改築のプロジェクトが相次いで完成。センターは新しく街が生まれ、ルートを更新する計画だ。

「車いす利用者向けの機能があるナビサイトは貴重な存在。安全で過ごしやすい街が広がってほしい」と坂上さん。巨大な地下空間に気遣いの心が光る。

文 黒滝啓介
写真 上間孝司